

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准 教 授	講 師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
リハビリ テーショ ン学部 リハビリ テーショ ン学科 作業療法 学専攻	3人 (含む特 任教授1 名)	4人	3人	0人	10人	6人	9人	1人	89人	8.8人	
計	3人	4人	3人	0人	10人	6人	9人	1人	89人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3

	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考 の基盤 人間と生活 社会の理解	あすなろう（初年次教育含）	30	小松 洋平 他	専任
		SDGs 入門	15	橋本 健夫 他	兼任
		関連職種連携入門	15	葛原 誠太 他	兼任
		心理学入門	15	岩木 信喜	兼任
		現代社会と倫理	15	井本 浩之	兼任
		人間論と現代思想	15	井本 浩之	兼任
		文学と言語	15	宇賀神 一	兼任
		生涯学習論	15	上野 景三	兼任
		肥前の歴史と文化	15	伊藤 昭弘	兼任
		脳と認知科学	15	松尾 萌美	専任
		法学	15	児玉 弘	兼任
		日本国憲法	15	井上 亜紀	兼任
		グローバル化と異文化共生	15	荒木 雪葉	兼任

		変わりゆく国際社会を生きる	15	田中 豊治 他	兼任
		多文化社会学	15	田中 豊治	兼任
		くらしと経済	15	権藤 幸憲	兼任
		ジェンダー論	15	藤田 由美子	兼任
		生命のしくみ	15	辻田 忠志	兼任
		生物と環境	15	北垣 浩志	兼任
		身近な生活の化学	15	安田 みどり	兼任
		統計学の基礎	15	上山 和俊	兼任
		身近な世界の物理学	15	福井 市男	兼任
		地域環境科学	15	飯盛 啓生	兼任
		健康スポーツ科学	15	元安 陽一	兼任
		フィットネス・スポーツ	15	音成 道彦 他	兼任
		ウェルネス・スポーツ	15	栗原 淳 他	兼任
		英語コミュニケーションⅠ	15	園部 ニコル 他	兼任
		英語コミュニケーションⅡ	15	園部 ニコル	兼任
		World Issues (世界事情)	15	園部 ニコル 他	兼任
		語学研修	15	園部 ニコル	兼任
		中国語	15	アイネル・バラティ	兼任
		韓国語	15	藤 知映	兼任
		日本語初級	15	早瀬 郁子	兼任
		日本語中級	15	早瀬 郁子	兼任
		日本語上級	15	早瀬 郁子	兼任
		データサイエンス入門	15	黒田 研二 他	兼任
		データサイエンス演習	15	小松 洋平 他	専任
		Basic English Ⅱ	15	Chand Bakshi	兼任
		Global English Ⅱ	15	園部 ニコル 他	兼任
		あすなろうⅡ 応用 (地域課題)	30	植田 友貴 他	専任
		あすなろうⅢ地域協働 (インターンシップ)	30	藤原 和彦 他	専任

専 門 基 礎		人間関係論	15	原口 健三	専任
		障害者福祉論	15	滝口 真	兼任
		レクリエーション論	15	押川 武志	専任
		園芸療法実習	30	小浦 誠吾 他	専任
		園芸論	15	小浦 誠吾 他	専任
		園芸療法論	15	小浦 誠吾 他	専任
		ガーデニング	15	小浦 誠吾 他	専任
		公衆衛生学	15	梅村 愛	兼任
		医学英語	8	坂本 飛鳥	兼任
		関連職種連携論	15	木室 ゆかり 他	兼任
		現代の医療制度 (※)	15	岸川 由紀	専任
	人間の構造 と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	15	宮本 明	兼任
		解剖学Ⅱ	15	宮本 明	兼任
		解剖学実習	23	宮本 明	兼任
		生理学Ⅰ	15	岸川 由紀	兼任
		生理学Ⅱ	15	岸川 由紀	兼任
		生理学実習	23	松尾 萌美 他	専任
		人間発達学	15	仙波 梨沙	専任
		運動学Ⅰ	15	植田 友貴	専任
		運動学実習	23	植田 友貴	専任
		疾病と障害 の成り立ち 及び回復過 程の促進	病理学	15	濱田 信之
内科学Ⅰ	15		庄野 菜穂子	兼任	
内科学Ⅱ	15		庄野 菜穂子	兼任	
老年学	15		押川 武志 他	専任	
整形外科Ⅰ	15		庄野 菜穂子	兼任	
整形外科Ⅱ	15		庄野 菜穂子	兼任	
神経内科学Ⅰ	15		庄野 菜穂子	兼任	
神経内科学Ⅱ	15		庄野 菜穂子	兼任	
小児科学	15		松尾 宗明	兼任	

		精神医学Ⅰ	15	小山 裕子 他	兼任	
		精神医学Ⅱ	15	小山 裕子 他	兼任	
		感染予防・救急法	8	梅村 愛	兼任	
		臨床薬学の基礎	15	窪田 寿彦	兼任	
		画像評価学	15	宮本 明	専任	
		リハビリテーション栄養学	15	三嶋 敏雄	兼任	
		疾病予防と健康管理	8	久保 温子	兼任	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	原口 健三 他	専任	
		リハビリテーション医療	15	他	専任	
	専 門 科 目	基礎理作業療法学	作業療法学概論	30	松谷 信也	専任
			基礎作業学	30	押川 武志	専任
			基礎作業学実習	45	藤原 和彦	専任
			基礎作業学演習	30	坂本 達哉 他	兼任
作業療法学研究法			15	原口 健三 他	専任	
作業療法学研究法演習			30	原口 健三 他	専任	
作業療法評価学		作業療法評価学概論	30	松尾 萌美	専任	
		作業療法評価学演習Ⅰ	30	植田 友貴 他	専任	
		作業療法評価学演習Ⅱ	30	東嶋 美佐子 他	専任	
		作業療法評価学実習	45	仙波 梨沙 他	専任	
作業療法管理学		安全管理運営学(※)	8	原口 健三 他	専任	
作業療法治療学		身体障害作業療法学	30	松谷 信也 他	専任	
		身体障害作業療法学演習	30	東嶋 美佐子 他	専任	
	身体障害作業療法学実習	45	植田 友貴 他	専任		
	精神障害作業療法学	30	原口 健三	専任		
	精神障害作業療法学演習	30	小松 洋平	専任		
	精神障害作業療法学実習	45	小松 洋平	専任		
	発達障害作業療法学	30	仙波 梨沙	専任		
	高齢期障害作業療法学	30	藤原 和彦	専任		
	高齢期障害作業療法学演習Ⅰ	30	押川 武志	専任		
	高齢期障害作業療法学演習Ⅱ	30	藤原 和彦	専任		
	高次脳機能障害作業療法学	30	松尾 萌美	専任		
	高次脳機能障害作業療法学演習	30	松尾 萌美 他	専任		

	日常生活活動学	30	松谷 信也	専任
	日常生活活動学演習	30	仙波 梨沙 他	専任
	義肢装具学	30	東嶋 美佐子	専任
	作業療法総合演習Ⅰ	15	小松 洋平 他	専任
	作業療法総合演習Ⅱ	15	植田 友貴	専任
	作業療法総合演習Ⅲ	15	藤原 和彦	専任
	作業療法技術学特論Ⅰ(※)	15	松谷 信也 他	専任
	作業療法技術学特論Ⅱ(※)	15	仙波 梨沙 他	専任
	作業療法技術学特論Ⅲ(※)	15	東嶋 美佐子 他	専任
	作業療法総合演習(※)	30	松谷 信也 他	専任
地域作業療法学	地域作業療法学	15	藤原 和彦	専任
	地域作業療法学演習	30	藤原 和彦 他	専任
	地域作業療法学実習	45	藤原 和彦 他	専任
	職業関連活動	15	原口 健三 他	専任
臨床実習	臨床実習Ⅰ	45	小松 洋平 他	専任
	臨床実習Ⅱ	45	植田 友貴 他	専任
	臨床実習Ⅲ	180	藤原 和彦 他	専任
	臨床実習Ⅳ-1(※)	315	松谷 信也 他	専任
	臨床実習Ⅳ-2(※)	315	松谷 信也 他	専任
卒業研究	卒業研究(※)	30	小浦 誠吾 他	専任

※ 旧カリ(2019年度教育課程)科目

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3

	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習 (臨床実習Ⅰ)	1年後期	リハビリテーション概論	1年前期
		作業療法学概論	1年前期
		作業療法総合演習Ⅰ	1年後期
地域包括ケアの理解と通所リハビリテーションの見学(臨床実習Ⅱ) 地域作業療法の理解	2年後期	臨床実習Ⅰ	1年後期
		作業療法総合演習Ⅱ	2年後期
		地域作業療法学	3年前期
		地域作業療法学演習	3年前期
		地域作業療法実習	3年後期
作業療法評価の実践と 治療計画の作成(臨床実習Ⅲ)	3年後期	作業療法評価学概論	2年前期
		作業療法評価学演習Ⅰ	2年前期
		作業療法評価学演習Ⅱ	2年後期
		作業療法評価学実習	2年後期
		作業療法総合演習Ⅲ	3年後期
		臨床実習Ⅱ	2年後期
作業療法評価の実践と	4年前期	身体障害作業療法学実習	3年前期

治療計画の作成並びに実践 (臨床実習Ⅳ-1, Ⅳ-2)	精神障害作業療法学実習	3年後期
	発達障害作業療法学	3年前期
	高齢期障害作業療法学演習Ⅰ	3年前期
	高齢期障害作業療法学演習Ⅱ	3年後期
	高次脳機能障害作業療法学演習	3年後期
	日常生活活動学演習	3年前期
	義肢装具学	3年前期
	作業療法評価学実習	2年後期
	作業療法総合演習Ⅲ	3年後期
	臨床実習Ⅲ	3年後期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
------	------	----



○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	西九州大学リハビリテーション学部点検・評価専門委員会
委員名（委員長）	小浦誠吾（委員長），久保温子，小松洋平，松谷信也，八谷瑞紀，中村雅俊
組織の開催頻度	1年に一度（3月に実施）
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析
	・ 教育改善の研修会（FD研修会など）の開催企画
	・ 外部認証評価による定期的な自己点検評価の実施
自己点検・評価結果の公表	HPで公表

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	西九州大学全学教務委員会
	委員構成等	教務部長、学科毎に2名の教員（内1名は教授）等
	改善の仕組みの実際	毎年度、シラバス作成要領の更改有無について委員会内で確認を行っている。また、教務委員の中からシラバスチェック者を選出し、第三者によるチェックを行っている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価組織による評価として、自己点検・評価及び第三者評価の結果として十分な評価ができる結果となっている。具体的には、専任教員の人数、講義内容、臨床実習関連、シラバスについても理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、設定・運用が行われている。今年度はコロナ禍で学外実習が難しい状況ではあったが、近隣病院の協力もあり、学外実習も実施でき、学生の教育を継続して行うことが出来たことは評価できると考えている。今後はさらなる教育の充実を目的に専任教員の臨床勤務の再開（コロナ禍により中断をしている）により臨床能力の向上、実習施設を含めた近隣施設との関係性の深化に努めていく予定である。また、2022年度のリハビリテーション教育評価機構の評価認定審査を受け、その結果に対する報告書を提出し、認証評価の結果を待っている段階である。